
責任重大てるてる坊主

ランデブー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

責任重大てるてる坊主

【Nコード】

N7305B

【作者名】

ランデブー

【あらすじ】

明日はサトミちゃんが楽しみにしていたピクニック！だ・け・ど外は大荒れ！サトミちゃんは不安になって泣きだしちゃいます。しかしママさんは大丈夫よと前向き。だって、明日ピクニックに行けるようお天気にしてくれるスペシャリスト、てるてる坊主がいるからさ。みたいな超短編小説！

(前書き)

1000文字以内で小説を書いちゃう超短編小説シリーズ第二弾です！

雨がザーザー降ってます。そりやもう土砂降りで、滝と言った方が適確な表現かもしれません。

「ママ……明日のピクニック大丈夫かな？」

サトミちゃんの泣きだしそうな声が静かな部屋に響きました。僕は第六感を感じ取ったのか、突然背筋が寒くなる。ブルブル！

「大丈夫に決まってるじゃない、だから安心して！ 明日お天気になるように、てるてる坊主を作ったんだから」

嫌な予感は当たってしまうモノだ。でも僕はお天気にする事が仕事だから、この雨風が荒れ狂う状態をどうにかしないとイケません。これは僕にしか出来ない責任重大な任務なのです！

「てるてるがお天気にしてくれるの？」

サトミちゃんは元気の良い声で言いました。

「そうね明日ベランダから空を見上げれば、そこには青空が広がってるでしょうね。でもサトミちゃんが良い子じゃないと、てるてるはやる気を無くして自分は必要とされてないのかな」と思って自らゴミ箱に向かっちゃうよ。だけどサトミちゃんがママの言う事を聞いてピーマンを残さずにちゃんと食べれたら、てるてるは「ご機嫌になって良い子にご褒美をくれるかもしれないわよ」

ママさんは楽しそうにそう言っつて、小走りで僕の隣にやってきて
眩く。

「アンタって使い捨てだけど意外と凄いや奴だから、サトミがピーマンを食べられた時は褒美をあげてね。今度はポケットティッシュじゃなくて、特別にボックスティッシュで作ってあげるからさ」

言い終わると小走りでキッチンへ向かい、ニコニコしながら冷蔵庫を開けた。

それにしてもママさん、別に小走りしなくても良いですよ。

「……ピーマン美味しくないから嫌い」

泣きだしそうな声。瞳はウルウルだ。

サトミちゃんはテーブルの上に置いてあるお菓子達を見やり、直ぐ様今度は僕をじゅっと見つめた。

「ママー。明日ピクニックに行けなくなったら、このお菓子はどうするの?」

「私が全部食べる。一つも残さずに食べてやる」

「そんなの駄目! ピーマン食べるから早く持ってきて!」

涙を流し鼻水を垂らし、サトミちゃんは叫んだ。

翌日。

空を見上げればそこには、三日ぶりに姿を現わした太陽が光り輝いていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7305b/>

責任重大てるてる坊主

2010年10月11日12時17分発行